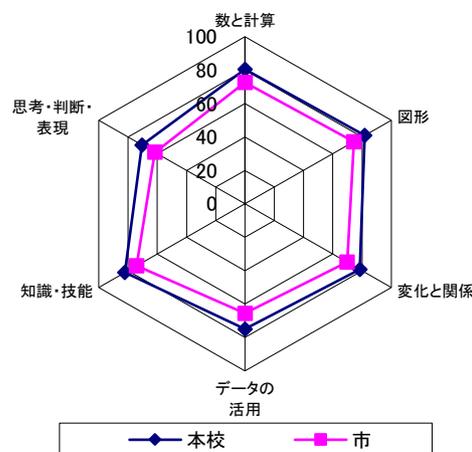


# 宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.5	72.6	71.6
	図形	81.8	74.4	72.0
	変化と関係	78.5	69.8	62.6
	データの活用	74.9	65.5	59.1
観点別	知識・技能	82.1	74.1	68.9
	思考・判断・表現	70.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は80.5%で、市の正答率を7.9ポイント上回った。</p> <p>○特に、分数同士のかけ算(約分なし)の問題では校内正答率が9割を超えた。</p> <p>●図を使って、小数倍の文章問題(純小数倍、比較量を求める)に合った乗法の式を選ぶ問題の校内正答率は59.3%で、市の正答率より5.4ポイント上回ったが、60%を下回っている。</p>	<p>問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線、線分図、テープ図などで正確に表して、問題を解決することができるように随時指導・支援をしていく。また、問題を解く機会を計画的に設定し、数量の関係について自分の言葉で記述し、説明する数学的活動を積極的に取り入れるようにすることで、基礎・基本の着実な定着を図っていく。</p>
図形	<p>○校内正答率は81.8%で、市の正答率を7.4ポイント上回った。</p> <p>○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、校内正答率が9割を超えた。</p> <p>●合同な三角形の作図の問題の校内正答率は77.8%で市の正答率を0.8ポイント上回ったが、80%を下回っている。</p>	<p>図形の学習においては、図形の感覚を豊かにするとともに、図形の性質を実感できるように理解を深めていくことが大切である。知識・技能を身に付けていくことに加え、作図などの数学的活動を通して、図形の性質をより実感できるような指導・支援をしていく。</p>
変化と関係	<p>○校内正答率は78.5%で、市の正答率を8.7ポイント上回った。</p> <p>○値に0がある分離量の平均を求める問題では、校内正答率が9割を超えた。</p> <p>●同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいか判断する問題の校内正答率は55.6%で、市の正答率を13.6ポイント上回ったが、60%を下回っている。</p>	<p>各問題に対し、自分の考え方を数直線や線分図、式、言葉などを使って表し、自分の言葉で友達にわかりやすく説明したり、聞いて補足したりするなどの数学的活動を積極的に取り入れる。また、既習内容を繰り返し復習していくことで、基礎・基本の確実な定着を図るようにする。</p>
データの活用	<p>○校内正答率は74.9%で、市の正答率を9.4ポイント上回った。</p> <p>○度数分布表の問題の校内正答率は91.4%で、市の正答率を4.8ポイント上回った。</p> <p>●もとにする量の大きさが違うとき、割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを、具体的に説明する問題の校内正答率は48.1%であり、市の正答率を14.4ポイント上回ったが、50%を下回っている。</p>	<p>棒グラフや折れ線グラフをはじめ、様々なグラフを的確に読み取り、問題場面と関連付けて問題解決の方法を自分の言葉や式で説明する数学的活動を計画的に取り入れるようにすることで、学級全体で指導したり個に応じた支援をしていく。また、既習事項を生かして他教科の学習や身近な生活の中で活用していき、それぞれのグラフのよさや特徴に気付くことができるようにする。</p>